

地域開催報告書【佐賀県】

「フェイクを見極める」



学校名 : 佐賀県立佐賀商業高等学校
情報処理科 1年

佐賀県立佐賀商業高等学校

- ・佐賀市の中心部に位置する
- ・在籍生徒数は 約720人
- ・商業科・グローバルビジネス科・情報処理科の3学科がある。
- ・就職と進学が約半数くらい。
- ・部活動が盛んで、九州大会や全国大会に多く出場している。



佐商プラウド

私は、情報処理科1年生です。
部活動は、計算事務部です！



『高校生ICTカンファレンス2021 in 佐賀』

令和3年10月23日(土)、佐賀市iスクエアビルにて開催



【佐賀県での事例】 佐賀銀行取り付け騒ぎ 携帯メールでデマ広がる

2003年12月25日(クリスマス)

...今から約18年前...

県内のある女性が、

「友人からの情報によると銀行が
つぶれるそうです」というメールを
知人ら26人に送ったのがきっかけ。

受信者が転送したり、話したりした
ことで急速に拡散し、取り付け騒ぎ
が発生した。

この騒ぎで、窓口やATMに客が
殺到し、約500億円が引き出される
事態となった。



デマが広がり、ATMの前には預金者の
行列ができた (佐賀銀行本店前)

テーマ1 私たちが実際に経験した身近なフェイクとは？

①チェーンメール

「このメールを〇分以内に〇人の人に送らないと、あなたは呪われます。」
⇒友達から送られてきた。他の人に転送した友人もいる。

②スパムメール(迷惑メール)

「100万円当選しました。」「あなたに荷物が届いています」
「以下のURLから確認してください。」 ⇒さすがに信じなかった。



③フェイクニュース

「コロナワクチンを打つと、不妊になる」 ⇒接種するかどうか迷った。
「トイレットペーパーが品薄になる」⇒母から買い出しに付き合わされた。
「インフルエンザワクチンが不足する」 ⇒先日、予防接種に行った。



テーマ2 なぜ、フェイクがなくなるのか？ なぜ、フェイクにだまされてしまうのか？

◎発信する側

- ・みんなの注目を集めたい。
- ・クリック数をかせいで、広告収入を得たい。
- ・嘘を伝えることが悪いことだと自覚していない。(本当に騙そうとしている)

※情報が正しいと信じ込んで、嘘だという判断ができていない場合は・・・

↓ その結果・・・ ↓

自分が困ることは、みんなも困るだろうと思い、親切心から他の人にも伝えて、さらに広めてしまう結果になる。

◎受信する側

- ・ネットの拡散力がすごいので、フェイクだと見極められずに、信じてしまう。
(たくさんの人が言っていることだから)

- ・友達など身近な人から聞いたことだから、信じてしまう。

(知り合いが言っていることだから)

↓ その結果・・・ ↓

情報を得て不安な気持ちになり、衝動的な行動を起こしてしまう。

(→パニックが起こる。)

テーマ3 それでも人はなぜネットを利用するのか？

- ネットの危険性よりも利便性が勝るから。
- ネットを利用することで生活が豊かになる。
- 手軽に多くの情報を得ることができる。
- 必要な時に必要な情報を得られる。
- 人と楽しみを共有することができる。
- 多くの人とつながることができる。
- 自己主張ができる。
- 自分の言いたいことを多くの人に聞いてもらえる。



ネット社会だからこそ、情報リテラシーが必要とされる。





テーマ4 フェイクにだまされないために…

◎発信する側

- ・ 確証のない情報を人に伝えない。
- ・ 発信元が信用できるか確かめる。
- ・ 物事を損得ではなく、善悪で判断して考える習慣をつける。
- ・ デマを拡散すると、自分も加害者になるという自覚を持つ。

◎受信する側

- ・ 自分の意見だけではなく、多くの意見を聞いて判断する。
- ・ 信頼できる情報源で、真偽を確認するようにする。
- ・ 危機感を持ち、常に疑う。うのみにしない。
- ・ 真偽を見極めて行動するために情報リテラシーを高める。

まとめ

私たちの提言 in 佐賀

フェイクを見極め、
ネットをより便利に活用するためには??

2つの提言を行います!!





提言1

小学生から情報リテラシーについて考える機会を増やす！！
～聞かだけの授業ではなく、体験型verの授業を！～

◎その概要とは…

- ・小学生から1人1台端末の整備が進んでいる。操作方法よりも情報リテラシー(フェイクニュースについて考えるなど)の学習の重視を！！
- ・実際に、チェーンメールやスパムメールなどを受信する実体験を取り入れた授業の実施を！！ そのとき、どう対応したかを振り返る体験型授業を。
(災害時の「緊急速報メール」の一斉配信訓練みたいなものを導入！！)
- ・被害者による体験談、ネット本来の怖さや危険性などをより深く知ることができる内容の授業を受けたい！ 利便性よりも危険性を学び、慎重になる！



提言2

AIによる識別の強化

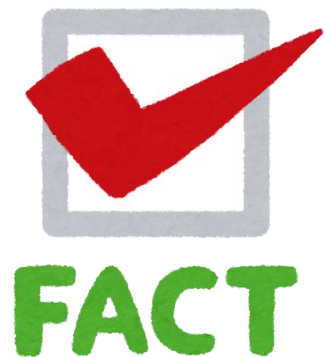
～フェイクを見極め、注意喚起を促すチェック機能～

◎その概要とは・・・

・AI技術の活用。AIが発信元や拡散状況から判断してフェイクかどうかを見極めて、**注意を促すような表示が出る仕組み**をつくる！！例えば、

- ☑ 「この情報の発信元は特定できませんでした」
- ☑ 「この情報の信頼性は保証できません」
- ☑ 「不適切な内容が含まれている可能性があるツイートです」
- ☑ 「情報源や信頼性について確認しましたか？」

などが表示され、チェック機能をつける。





佐賀大会の報告
を終わります。

